

盤上この一手



NCS  
japanchess.org  
2021.1.23

# NCS Letter 23

"Chess, like love, is infectious at any age."  
--SALO FLOHR--

無料版



# #23 ※目次は会員版の見本です

03 | Yumi's Greeting 2021  
ヒーバート 由美子

## FEATURES: オンラインラピッド選手権

05 | 予選第6ラウンドレポート

08 | 自戦解説  
真鍋 浩

06 | 自戦解説  
山田 弘平

09 | The Final Six!  
Scott, Tyler

## SERIES & OTHER STORIES

16 | チェスと将棋  
塩見 亮

38 | チェス大会 in アメリカ  
上杉 賀子

20 | **NEW** 名局から学ぶ必修パターン  
山田 弘平

40 | クラブ紹介：  
大阪阿倍野チェスクラブ  
赤井 清隆

26 | チェスダネ：海外大会のすすめ

44 | 盤上この一手 No.2  
編集部

27 | From Tyler's Desk:  
Tragicomedies from the Online  
Rapid Part 1 Scott, Tyler

45 | インフォメーション  
YouTube配信予定、大会速報  
盤上この一手 解答

32 | OTBプレイヤーのための  
チェスプロブレム入門④  
前嶋 啓彰

47 | 編集後記  
神田 大吾

## - SPONSORS -







## チェスと将棋

羽生善治さんに訊く

塩見 亮

**日** 本のチェスプレイヤーの特徴として、「もともと将棋をやっていた人が多い」ということがある。

私自身、小学生のころは将棋に夢中であった。中学・高校時代はボードゲームから離れていたものの、大学に入り、ふとしたきっかけから今度はチェスを覚えた。今ではすっかりチェス歴のほうが長くなってしまったが、チェスを指しながら、子どものころ将棋道場にいたときの感覚をふと思い出し、懐かしいような気持ちになることがある。ゲームとして、将棋とチェスに共通する部分が多いからだろう。

逆に、チェスが将棋と似ているだけに、違っている部分に気づくと、興味深く感じることがある。「チェスと将棋の比較」は、本格的に研究するというほどではないけれど、自分の中でも気になるテーマとなっていた。

日本チェス連盟（NCS）会員みなさんにも共感と興味を得られることがあるかもしれないので、チェスと将棋について、これから時々触れてみたいと思う次第である。

……と言いながらも、私がこのテーマについて語るのにふさわしいのだろうか？ という疑問も、同時

に浮かんでくる。所詮、将棋に関しては子どものころかじったという程度であり、それぞれのゲームの本質をより深く理解している人は、他にもたくさんいるのではないか。

というわけで、その最高峰と思える羽生善治さんに、思い切ってメールでの簡単なインタビューをさせていただいた。初回は、その問答をご紹介します機会としたい。

羽生さんといえば、将棋棋士としてはもはや説明の必要もないレジェンドであり、チェスに関しても始めて数年の間にレーティング国内1位(2415)に達したというスーパープレイヤーである。

短い言葉の中にも、重みと説得力が感じられるというものだ。

——将棋とチェスで、最も「違う」と感じる点は何でしょうか？

「エンドゲームが読みも考え方も最も異なるところで、特に駒数が少なくなってきたらそれは感じます。」

将棋は取った駒が使えるので、局面が進むと持ち駒が増え、手の可能性が増えていく。逆にチェスは、駒がどんどん減っていくので、手は限られていく(手が限られる＝単純、ではないというのが面白いところだが)。

それゆえ、序盤・中盤は比較的似たゲームに思えても、終盤(エンドゲーム)になるとまったく違うゲームに変容するという感覚は、確かにある。

そういえば、羽生さんはどこかで、「チェスは将棋よりも囲碁に似ている」と発言されていて、意外だった記憶がある。

## 羽生さんに質問

——「チェスは将棋よりも囲碁に似ている」というのは本当ですか？

「はい。囲碁もチェスも最後は収束に向かって静かな手が続くのが、大きな共通点だと思います。」

ひとつ例を挙げよう。NCSレターNo.22の「Calculation Dojo」で、このようなポジションが取り上げられていた。



Grigoriev

ここから白が勝つための唯一の手段は

### 1.Ka1!!

なのだが、たとえばこのような局面を羽生さんは「囲碁的」と受け止めているのではないか。

将棋の終盤は基本的に、どちらが先に相手の玉を詰ませるかのスピード勝負になるので、1.Ka1!!と後退するような感覚の手はありえない。こういう面において、チェスと将棋が似ても似つかないということはわかるのだが、「囲碁に似ている」というコメントは新鮮だったので、記憶に残っていた。

——ゲーム自体ではなく、それ以外の部分で将棋との違いを感じた点がありますか？

「チェスの大会に参加してみて、タッチアンドムーブやイリーガルムーブのルールなど、チェスの方が細かいルールが規定されている印象を受けました。」

チェスでは、一度駒に触れたら、必ずその駒を動かさなければならない(タッチアンドムーブ)。また、禁じ手(イリーガルムーブ)は将棋では即負けとなるが、チェスでは「不可能な手」とみなされてやり直しになり、持ち時間に影響するなど、細かいルールが規定されている。



このあたりの差は実際とても面白いので、また機会をあらためて取り上げたいと思う。

――チェスの経験は、羽生さんの将棋にとってどのような影響をもたらしましたか？

「毎日試合が続く経験は将棋ではなかったのですが、フィジカル面、メンタル面でのトレーニングにはなっていると感じています。」

これも第一人者ならではの回答という気がする。私などからすると、持ち時間9時間、2日で1局を指す名人戦などのほうが、フィジカル面でもメンタル面でもはるかに厳しい気がするのだが（笑）。

ここで羽生さんと私のかかりについて触れておくと、2014年に行われたニコニコ動画の特別企画、カスパロフ対羽生戦の大盤解説を担当させていただいたというのが、とても光栄で、大きな出来事だった。

「電王戦特別企画 ガルリ・カスパロフ vs 羽生善治チェス対局」というタイトルで今でも動画を視聴できるので、まだの方はぜひご覧になっていただきたい。二番勝負の内容も面白かったし、インタビューや感想戦での、将棋のときは見せない（？）羽生さんのうれしそうな表情も印象的だ。



元世界チャンピオンとの対局と対話からも、多くのことを吸収されたのではないかと想像する。

——羽生さんのこれまでのベストゲームはどれでしょうか？（もちろん、チェスです！）

「2005年のGM Wellsとの対局は、反響も大きかったので印象に残っています。」

このゲームは、私もとても印象に残っている。ぜひ盤に並べて鑑賞してほしい一局だ。

□ Wells, Peter Kenneth (2513)

■ Habu, Yoshiharu (2341)  
Hoogeveen Essent 2005

1.d4 d5 2.c4 c6 3.Nf3 Nf6  
4.Nc3 e6 5.e3 Nbd7 6.Bd3  
dxc4 7.Bxc4 b5 8.Be2 b4  
9.Na4 Bd6 10.e4!? Nxe4  
11.Qc2 f5 12.Ng5!? Nxg5!?  
13.Qxc6 Ne4 14.Qxa8 0-0



対戦相手のWellsはオープニングに関する著書も多くあり、よく知られたグランドマスターである。そのWellsが序盤から技を繰り出し、駒得に成功したところだが、その反動で羽生さんが

ここから攻勢に転じることになる。

Shogi Legendに対して、これは危険な戦略だったかもしれない。

15.Qc6 Ndf6 16.f3 Bd7  
17.Qa6 Bxa4 18.Qxa4?!



ここで、羽生さんの目がキラッと光った（たぶん）。

18...Bxh2!!

これが羽生さんのキャリアにおけるベストムーブと言えるだろう。驚くことにこの一手で、白はどう応じても收拾がつかなくなっているのである。

19.Rxh2 (19.fxe4とナイトを取ってもBg3+で、やはり攻めが止まらない)

19...Qxd4 20.fxe4 Nxe4



この瞬間、白はルークとピースが1つずつ多く、黒は圧

倒的に駒損だ。にもかかわらず、局面は黒の勝勢である。中央で威張っている黒の駒と、盤の端っこに取り残された白の駒のコントラストは、鮮やかすぎるほどだ。

21.Rh1 Qf2+ 22.Kd1 Rd8+  
23.Kc2 Qxe2+ 24.Kb1 Nc3+!  
25.bxc3 bxc3 26.Ba3 Rb8+  
27.Qb3 Qd3+ 28.Kc1 Qd2+  
0-1

28...Qd2+以下、 29.Kb1 c2+ 30.Kb2 c1Q#でチェックメイト。最後は寸分の隙もなく討ち取った。

こんな名局を残した羽生さんだが、今後もチェスと関わっていかれるのだろうか？

——今後の展望を教えてください。

「ここ数年は、残念ながら大会に参加できていません。今現在のところでは再開の予定はありませんが、タイミングが来たら再開します。」

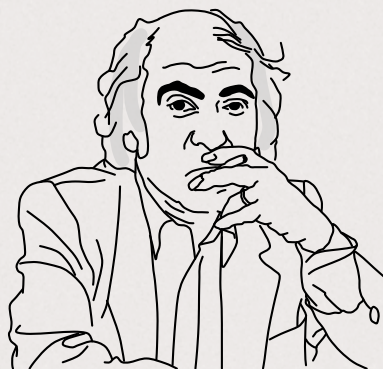
「タイミングが来たら再開します」！ この言葉だけでも、今回の原稿をお読みいただいた価値があるのではないだろうか（笑）。

新団体、日本チェス連盟のもと、進化を遂げている日本チェス界。

羽生さんの復活も、楽しみにお待ちしたい。

（写真：長谷川愛美）

# NO.2 盤上この一手 編集部



白刃舞い火花散る実戦からの一手。実際に駒を並べ、剣豪たちの思いに浸りながら解くもまた良し。前号に続き全日本選手権2020から。解答は巻末に。

1) △白番  
15...0-0 まで



2) ▼黒番  
33.Qxd1 まで



3) △白番  
7...e6 まで



4) ▼黒番  
17.h3 まで



5) △白番  
21...Bxf3 まで



編集部：山田明弘・神田大吾・ごまめ・おはな・木下奏子・ヒーバート由美子（順不同）

写真提供：長谷川愛美・おはな

発行：日本チェス連盟（一般社団法人 National Chess Society of Japan）

本誌に掲載された写真、イラスト、記事、棋譜の解説などについて、  
無断転載および無断配布を禁止します。著作権はそれぞれのクリエイターにあります。